

# リゾーム型研究人材育成プログラム

## 説明資料

事業統括：重松孝昌  
河北哲郎



事業統括により選抜された優秀な博士後期課程学生は、所属元の変更などのポータビリティを担保した上で**自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念**し、あわせて当該博士後期課程学生に対しては、**生活費相当額及び研究費の支給**や、**キャリア開発・育成コンテンツ**（国際性の涵養、学際性の涵養、キャリア開発、トランスファラブルスキルの習得、インターンシップ等）をはじめとする様々な支援が提供されます。

次世代研究者挑戦的研究プログラムは、博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材が様々なキャリアで活躍できるように研究力向上や研究者能力開発を促す事業です。



# 『リゾーム型研究人材育成プログラム』の背景

- 大阪市立大学・大阪府立大学の『伝統の発展的継承』

- さまざまな課題を抱える都市・大阪

- 地域・社会の課題の解決を通じたグローバル社会への貢献
  - 人間の行動様式を踏まえたうえでの技術イノベーションの展開・活用
  - 都市の社会的・文化的資源を開拓・再発見
  - 新たな都市の魅力の向上（ブランディング）
- 閉塞感の強い日本社会を新たなステージに誘う突破力の必要性

- 大阪公立大学

- **地域に根ざした公立の総合大学ならではの社会貢献を志向**

# 『リゾーム型研究人材育成プログラム』の理念と目的

基本理念：「**まちをつくることは、人をつくること**」

【課題】 新たな知を創生するとともに総合知を養成し、地域・社会の課題解決を通してグローバル社会を牽引するあらゆる研究課題を対象とする

- 社会課題の解決に資する研究
- 先導的複合研究領域を創成する研究
- 未来社会の創出に資する研究

これらの総合的課題に包含される  
あらゆる研究を対象

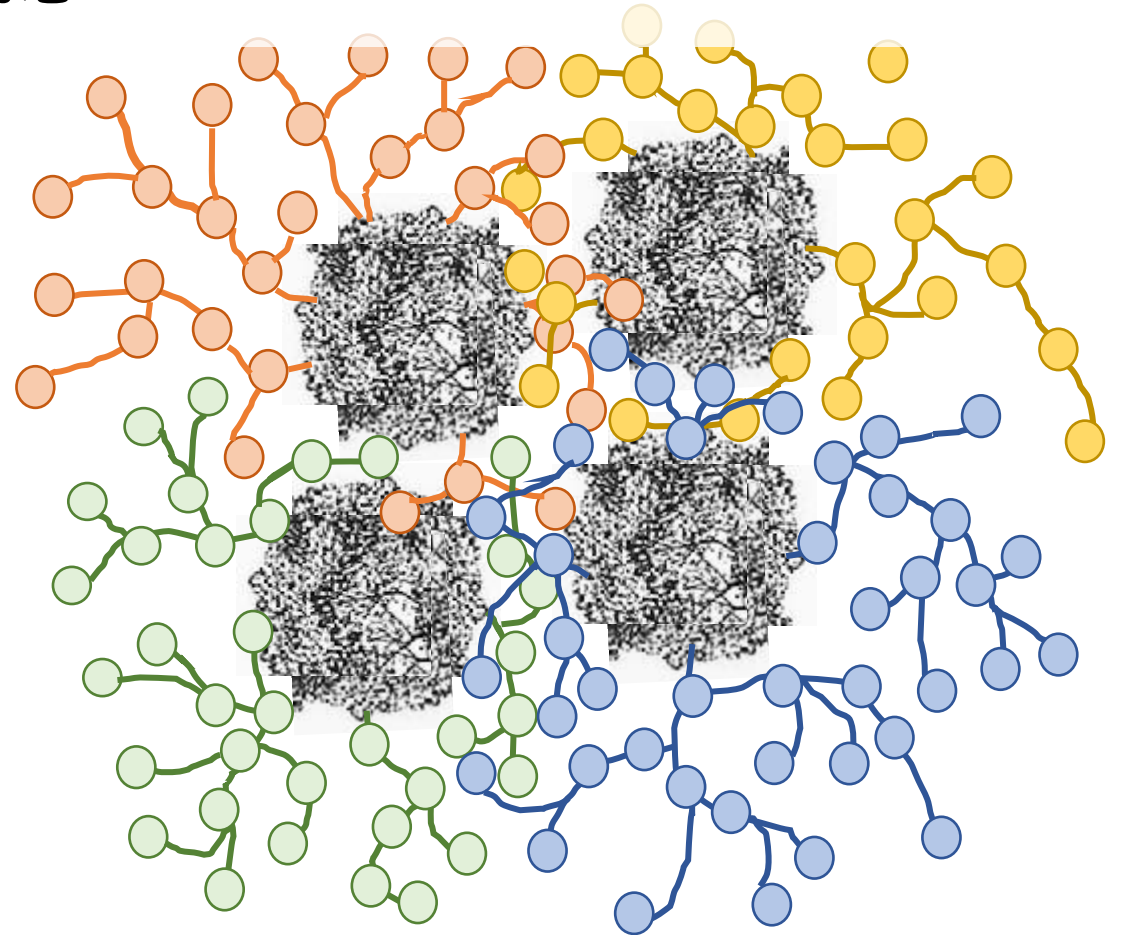
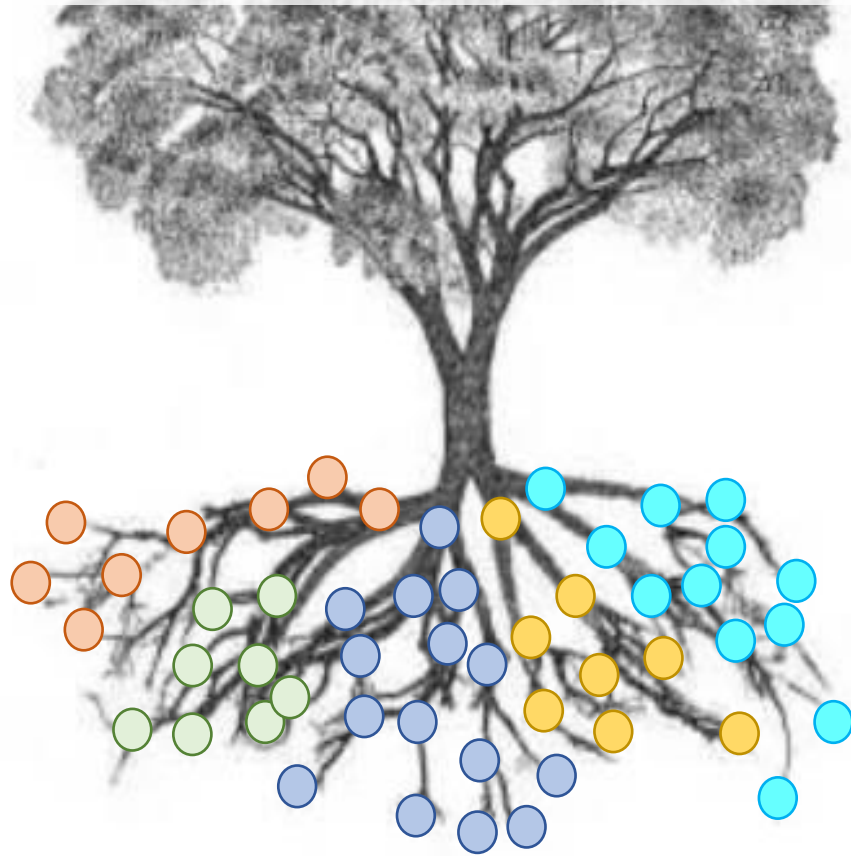
【目指すべきビジョン】

複合的な専門知を活用し、先導的な研究の創生と未来社会の創造に貢献する意志と研究ビジョンを持つ学生の育成



# リゾーム

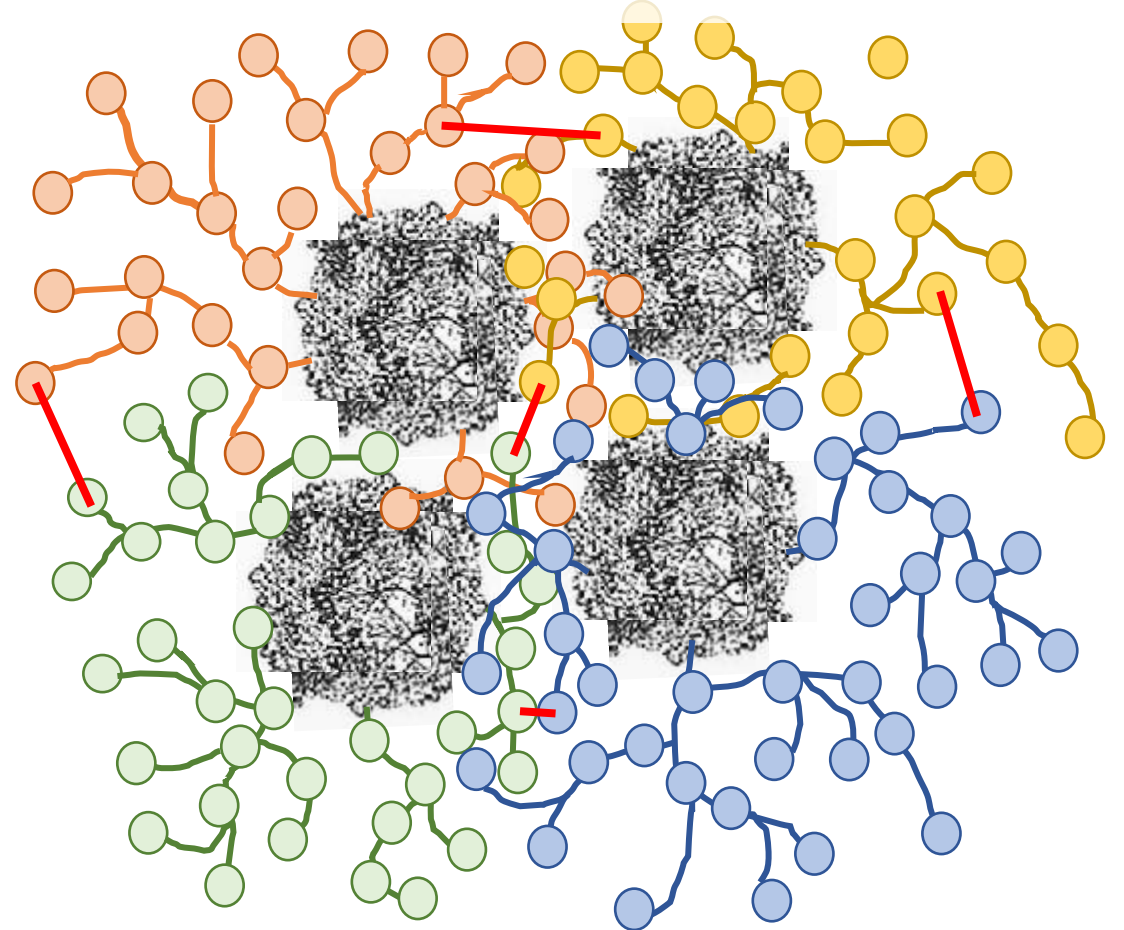
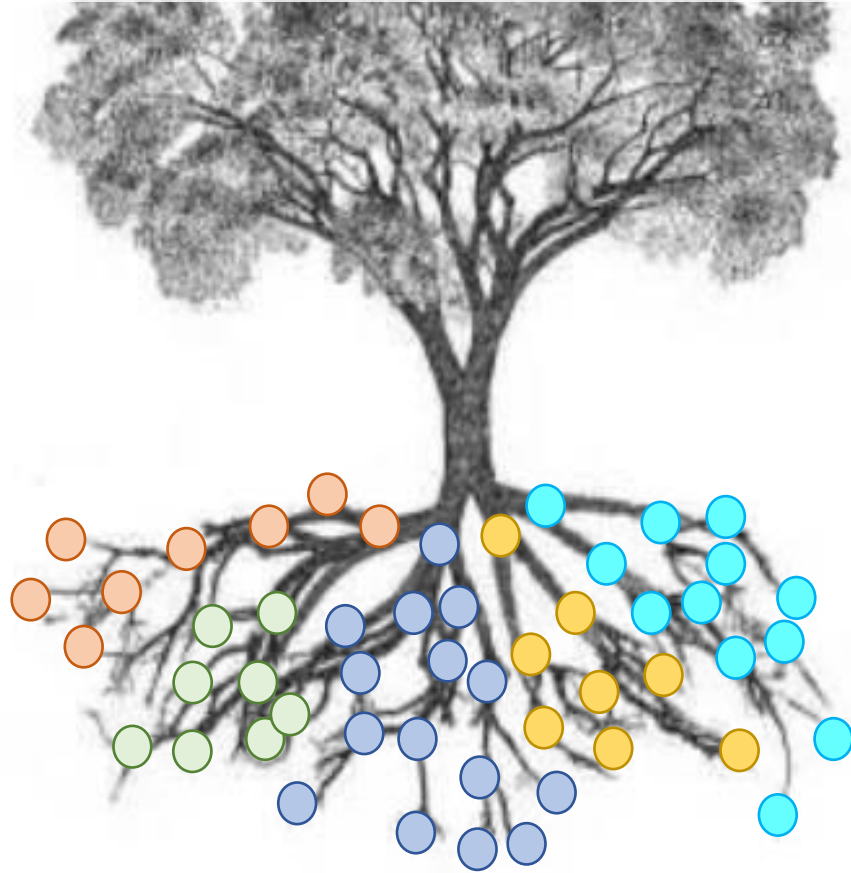
相互に関係のない異質なものが、階層的な上下関係ではなく、横断的な関係で結びつく様を表す概念



# リゾーム

「リゾームには、構造、樹木、根などにおいて見出されるような点ないし位置と  
いったものはない。線があるだけなのだ」

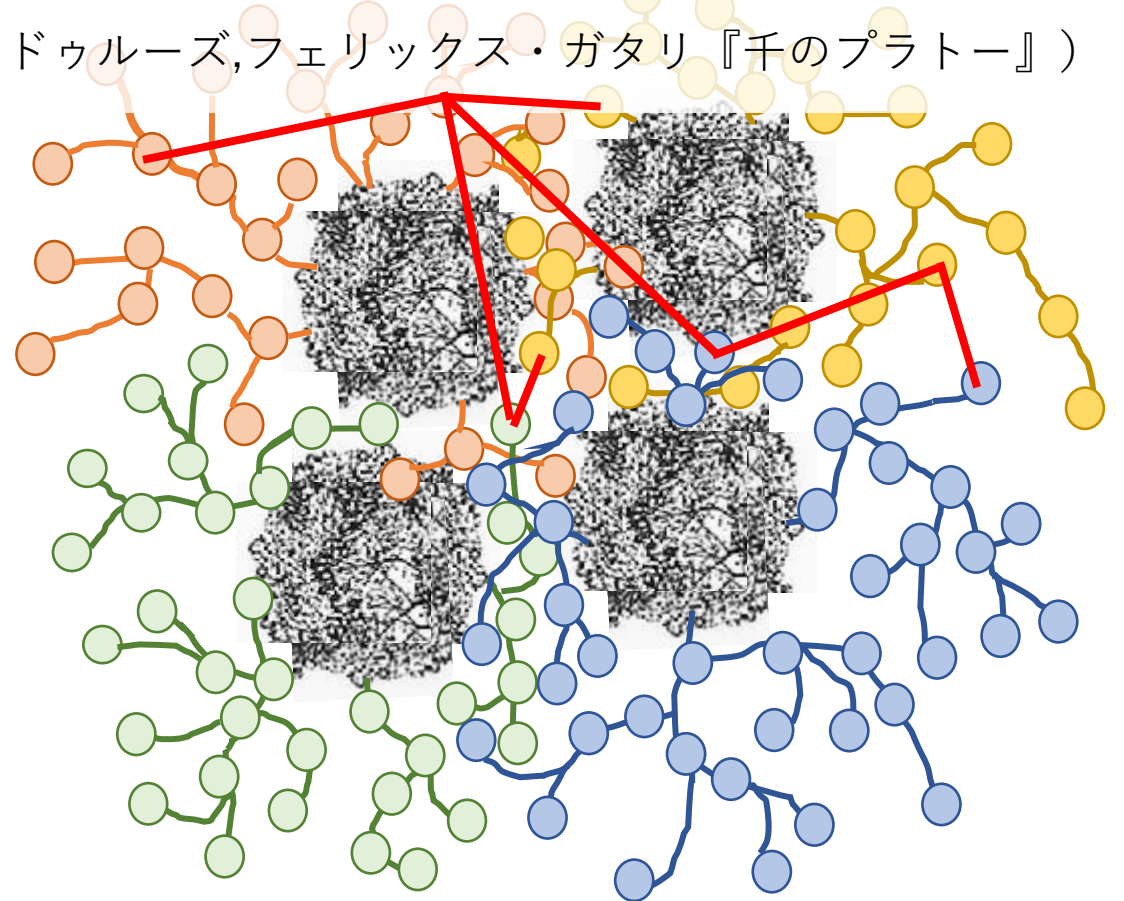
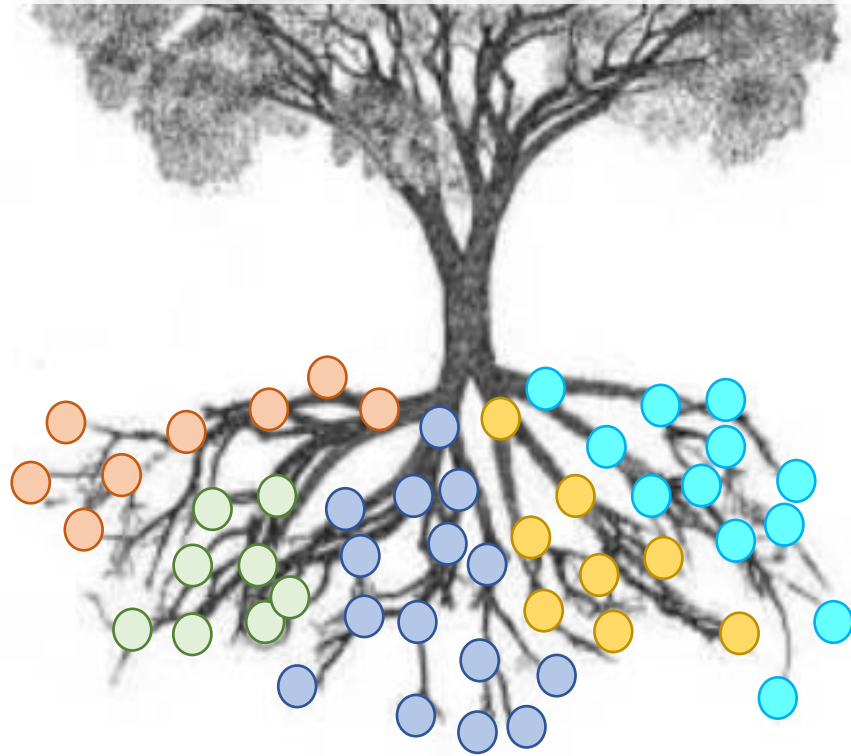
(ジル・ドゥルーズ, フェリックス・ガタリ 『千のプラトー』)



# リゾーム

「リゾーム状になるということは、根のように見える茎や繊維を産み出すこと、いやそれよりも幹に侵入してそれらの根と連結され、それらを奇妙で新たな用途に役立てることも辞さない茎や繊維を産み出すということである」

(ジル・ドゥルーズ, フェリックス・ガタリ 『千のプラトー』)









# 支援学生に求める素養

## 学生に求める素養

- 社会における自らの研究の位置づけの把握
- 強い知的好奇心・欲求と多様な視野
- 国際的視野の養成に対する意欲
- 将来社会に対する自らの貢献

## 幅広の課題設定

- 社会課題の解決に資する研究
- 先導的研究領域を創成する研究
- 未来社会の創出に資する研究

これらに包含されるあらゆる研究を対象とし、既存の研究科の枠組みにとらわれ  
ることなく専門知の深化と有機的結合に積極的に取り組む者を支援する

# 応募要件

- 2023年10月に、大阪公立大学の大学院の博士後期課程（3年制）に入学予定の者

ただし、支援開始時点で以下に該当する者は除く（詳細は募集要項を参照のこと）

- 独立行政法人日本学術振興会の特別研究員(DC)に採択されている者
- 国費外国人留学生制度による支援を受ける留学生
- 本国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- 社会人学生のうち、所属企業等から安定した十分な生活費相当額（240万円/年を基準とする）を受給可能な制度がある者
- 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースhip創設事業の支援を受けている者または合格している者  
支援または合格の辞退届を提出した者はこの限りでない

本プログラムを遂行するためには、指導教員の理解が不可欠です。

出願前に、必ず、指導予定教員の了解を得てください。

また、予め本説明資料を見て本プログラムの趣旨を十分に理解したうえで、申請ください。

# 募集予定人員

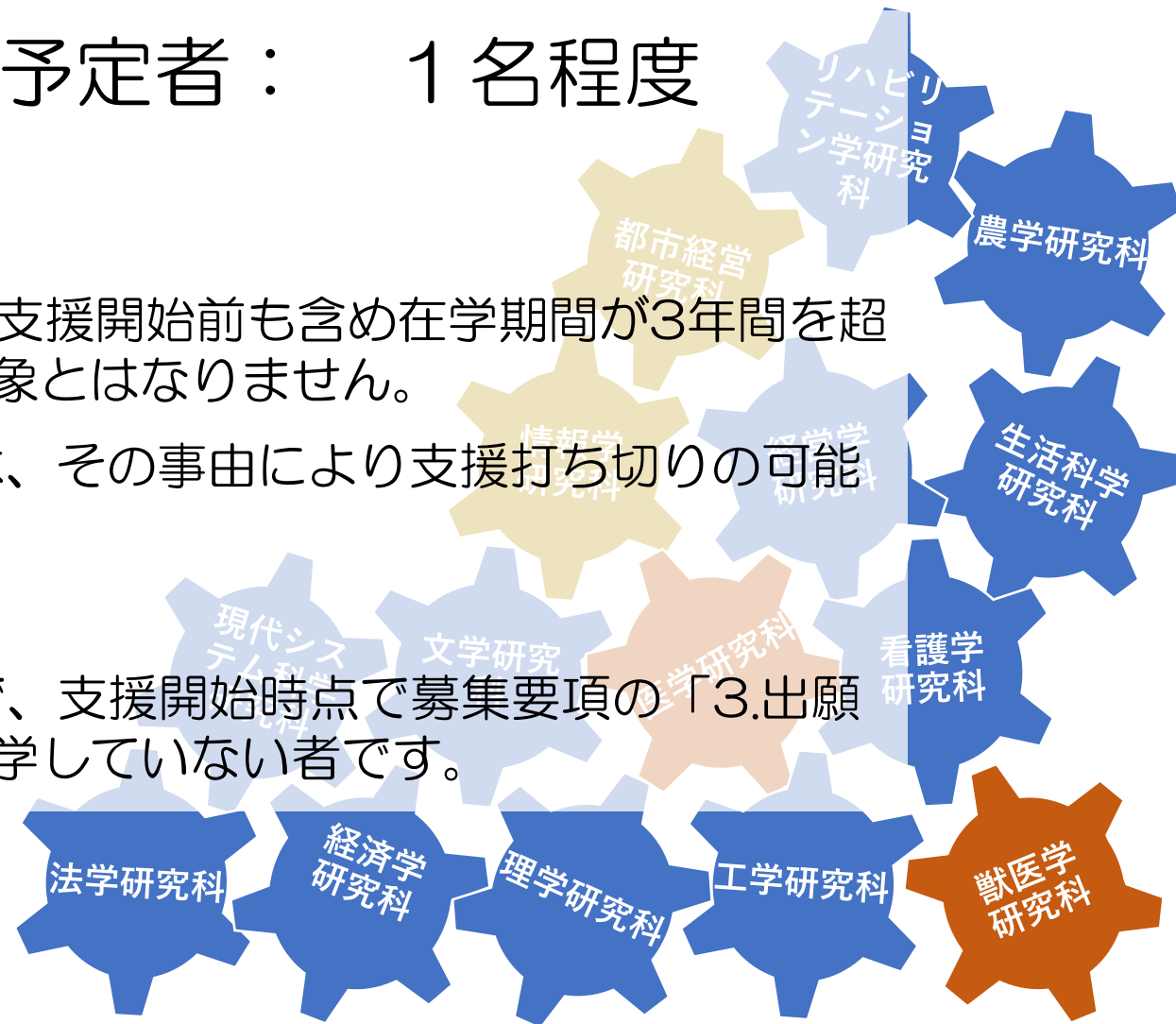
## ・2023年10月（3年制）入学予定者： 1名程度

（医学研究科と獣医学研究科は含まれません）

- (1) 支援期間は最大3年間とし、本事業の支援開始前も含め在学期間が3年間を超える場合には、以降の期間は支援の対象とはなりません。

なお、支援期間中に休学を行う場合は、その事由により支援打ち切りの可能性があります。

- (2) 支援は2023年10月から開始します。
- (3) 支援の対象は、本選考に合格した者で、支援開始時点で募集要項の「3.出願資格」に記載の研究科に在籍しかつ休学していない者です。





# 選抜方式および選抜スケジュール

- 小論文の内容(100点)とそれに基づく面接試験(100点)で判定
- 選抜スケジュール
  - 募集要項に記載のとおり
- 評価の視点
  - 自身の研究内容を専門外の人にわかり易く説明できる
  - 自身の研究が現在社会の課題解決や先導的研究領域の創生、未来社会の創出にどのように関わるのか理解している
  - 自身の研究に、どのような複合知が必要であるのかを認識するとともに、それを習得しようとする強い意欲がある
  - トランスファラブルスキルの重要性を理解し、身に付けようとする意欲がある
  - 修了後のキャリアパスを意識し、社会でどのように活躍・貢献したいかを考えている

# 評価方法

区分	評価項目	評価外・評価不可	標準を大きく下回る	標準以下	標準	標準以上	標準を大きく上回る
		0点	1点	2点	3点	4点	5点
分野別	(1) 自身の研究が現在社会の課題解決や先導的研究領域の創生、未来社会の創出にどのように関わるのか理解している	自身の研究の重要性が理解できていない。	自身の研究の重要性を理解する心構えはある。	自身の研究の重要性を理解し、現在社会の課題解決・先導的研究領域の創生・未来社会の創出との関係を意識している。	自身の研究が、現在社会の課題解決・先導的研究領域の創生・未来社会の創出に如何に関わるのかについて、説明できる。	自身の研究が、現在社会の課題解決・先導的研究領域の創生・未来社会の創出に如何に関わるのかについて、筋道をたてて、論理的に説明できる。	自身の研究が、現在社会の課題解決・先導的研究領域の創生・未来社会の創出に如何に関わるのかについて、論理的に説明でき、その具体的な解決方法と効果まで説明できる。
	(2) 自身の研究に、どのような複合知が必要であるのかを認識するとともに、それを習得しようとする強い意欲がある	複合知の必要性が理解できていない。	複合知の必要性を理解する心構えはある。	複合知の必要性を理解し、自身の研究におけるそれぞれの役割を認識している。	自身の研究において、現在社会の課題解決・先導的研究領域の創生・未来社会の創出に対する複合知の必要性について説明できる。	自身の研究において、現在社会の課題解決・先導的研究領域の創生・未来社会の創出に対する複合知の必要性について、論理的に説明できる。	自身の研究において、現在社会の課題解決・先導的研究領域の創生・未来社会の創出に対する複合知の必要性とともに、得ようとする研究成果との関係を適切に説明できる。
共通	(1) 自身の研究内容を専門外の人にわかり易く説明できる	自身の専門領域の知識が不十分である。	自身の専門領域の知識はあるが、専門外の人を意欲した説明ができない。	自身の専門領域の知識があり、専門外の人を意欲しているが、十分に理解できる説明になっていない。	自身の専門領域の知識が十分にあり、自身の研究概要を専門外の人にも一定の理解が得られるよう説明ができる。	専門領域の知識が十分にあり、自らの取り組みのオリジナリティとその成果および有用性を専門外の人に理解できるように説明できる。	自身の研究内容の背景、課題、取り組み内容、社会への貢献などを総合的に専門外の人にも理解できるように説明できる。
	(2) トランスファラブルスキルの重要性を理解し、身に付けようとする意欲がある	トランスファラブルスキルを知らない。	トランスファラブルスキルを聞いたことはあるが、説明できない。	トランスファラブルスキルを理解し、その重要性は認識している。	トランスファラブルスキルの重要性を認識し、特定のスキルに対する学びへの意欲がうかがえる。	トランスファラブルスキルの重要性を認識し、特定のスキルを学ぶ具体的な計画を考えている。	トランスファラブルスキルの重要性を認識し、具体的な目的意識を持って計画を立て、特定のスキルを学ぶ活動が出来ている。
	(3) 修了後のキャリアパスを意識し、社会でどのように活躍・貢献したいかを考えている	キャリアパスや将来展望を考えたことがない。	キャリアパスについて考えたことがあるが、具体的な考えまでには至っていない。	修了後のキャリアパスを意識しており、社会でどのように活躍・貢献したいか、考える準備ができています。	修了後のキャリアパスを意識しており、社会でどのように活躍・貢献したいか、その具体的な姿を説明できる。	修了後のキャリアパスを意識しており、社会でどのように活躍・貢献したいか、具体的な姿と自身の考えを説明できる。	修了後のキャリアパスを意識しており、社会での具体的な姿を目指し、具体的な目標を立てて活動できている。

# 申請にあたって

- 申請先
  - 応募要項に記載の申請フォームへの入力・送信
- 写真
  - 肩を含む顔写真（電子ファイル）をご用意ください
  - ファイル名を「**学籍番号\_氏名. 拡張子**」として提出
    - 拡張子は、ファイル形式（jpg、bmp、png、tiffのいずれか）にあわせてください。
- 小論文
  - 個人属性・研究概要情報
    - **氏名・所属(研究科・専攻)・指導教員**（**必ず、指導教員と事前に相談して申請してください**）
    - **研究題目・研究キーワード**
    - **指導を希望する副研究科等および教員**
      - **申請段階で決まっていない場合には、予定者名あるいは想定している研究科名等を必ず記入のこと**
  - 小論文
    - ファイル名を「**学籍番号\_氏名. pdf**」として提出



# 申請にあたって

## ・小論文

- ・ 様式1を用いて作成してください
- ・ 記載内容

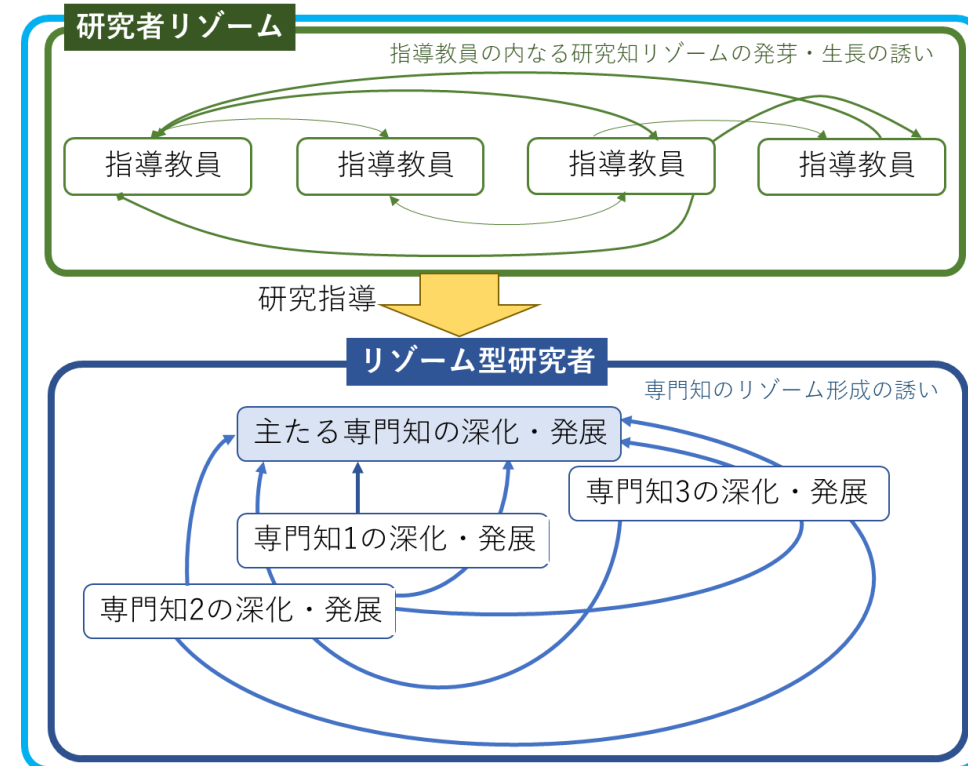
- ・ 自身の研究について、研究目的、研究方法、研究内容、研究の特色・独創性（先行研究等との比較、研究完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）を簡潔、かつ、わかりやすく記述してください。そのうえで、学位を取得するまでに、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記述してください。令和5年度(2023年度)日本学術振興会特別研究員に応募した者は、補足資料としてその申請書を添付しても良い。
- ・ このプログラムで得られる研究成果が、(1)社会課題の解決、(2)先導的研究領域の創生、(3)未来の社会像の創出のいずれか、もしくは複数とどのように結びつくと考えているのか、具体的に記述してください。
- ・ リゾーム型研究者育成プログラムの趣旨に則ったどのような『複合知』が必要と考え、それをどのように習得しようとしているか記述してください
- ・ 本事業において、自身がどのようなトランスファラブルスキル\*を身に着けようと考えているか、また、その理由と方法について記述すること

※本事業におけるトランスファラブルスキル：イノベーション人材に必要とされる、独創性や自由な発想、チャレンジ精神、研究ニーズ発掘力、研究マネジメント能力、データ分析力、プレゼンテーション力および人を惹きつけるリーダーシップ等の広く転用・応用可能なスキル

- ・ 博士課程修了後の自身のキャリアパスに関する考えと、社会でどのように活躍・貢献したいかについて記述すること

# 支援学生の責務

- 副研究科等の指導教員を設定し、複合知の研究の推進
- 研究進捗状況報告会（半年ごと）にて、進捗状況の報告
  - 資格審査を兼ねる
  - リゾーム推進教員（主研究科教員、副研究科教員）
- 大学院共通教育科目から一定数の単位取得
  - キャリア形成
- 国内外留学（3～6ヶ月程度：必須）
  - キャリア・ネットワーク形成
- 長期インターンシップ（3ヶ月程度：推奨）
  - キャリア・ネットワーク形成
- 研究論文発表・国際会議への参加
  - 研究促進、キャリア・ネットワーク形成
- JST指定の研究倫理教育及び本学の定めるコンプライアンス教育の受講
- 独立行政法人日本学術振興会の特別研究員DCに申請（毎年）
- JSTおよび本プログラムからのモニタリング調査・追跡調査への協力

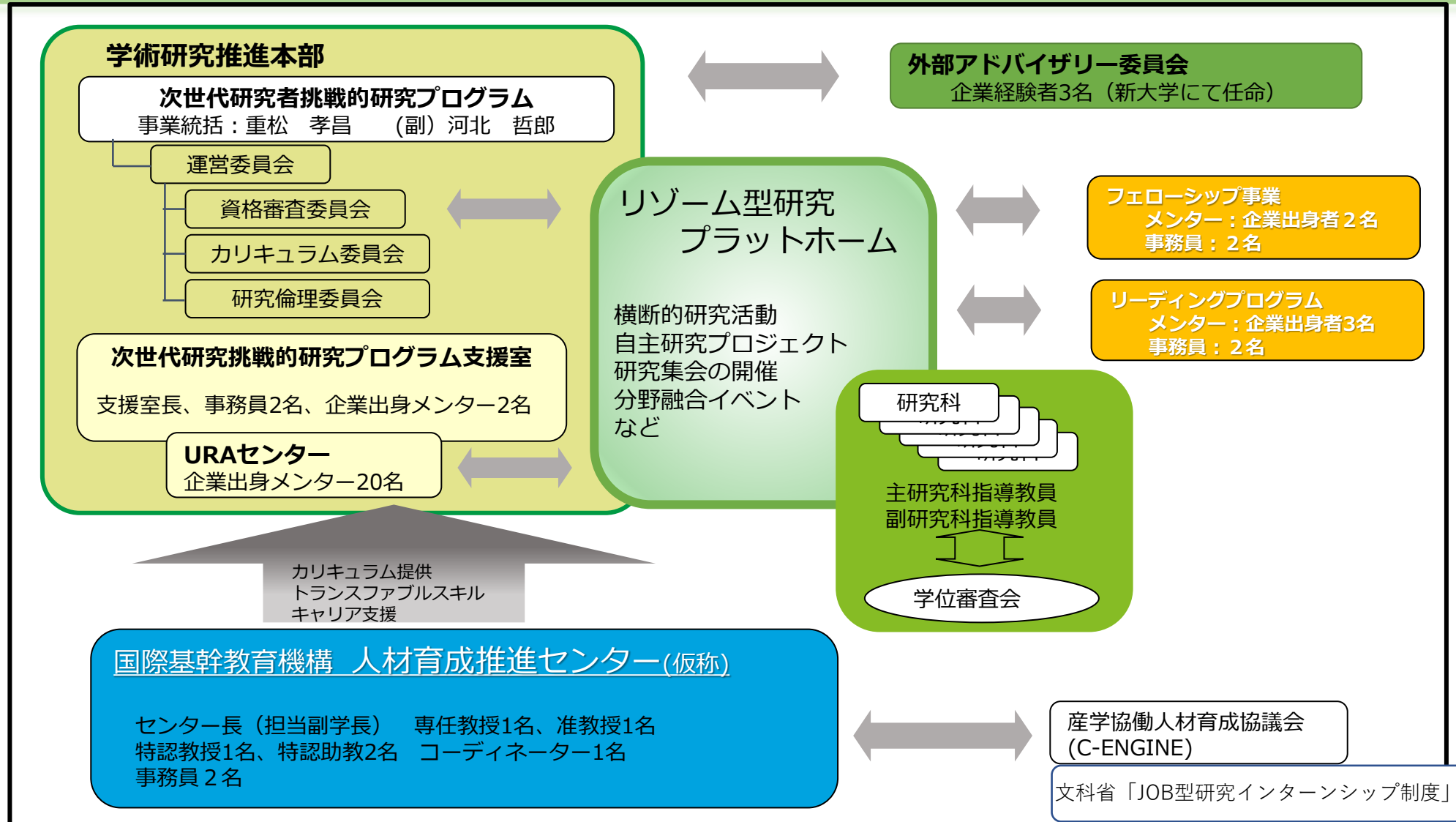


# 支援の内容

- リゾーム研究奨励費：年間220万円  
内訳：研究奨励費（生活費相当）200万円＋研究費20万円  
※標準修業年限を越えない範囲
- 国内外留学支援費：支援期間中に最大150万円
- 長期インターンシップ支援（3ヶ月程度を目安）
- 国際学会・海外サマースクール渡航費・参加費等支援：申請
- 研究論文投稿支援費（翻訳費用を含む）：申請
- 自主研究プロジェクトの開催支援：申請
- キャリア・ネットワーク形成支援：申請



# プログラムの運営組織



---

ご応募、お待ちしております！

# Q & A 総合知について

## ・総合知とは具体的にどのようなものでしょうか？

- 多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと
  - ✓ 「知の活力」を産むことこそが「総合知」である
- 人文・社会科学と自然科学を含むあらゆる「知」を融合した「知」

『「総合知」の基本的考え方及び戦略的に推進する方策 中間とりまとめ』  
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局、令和4年3月17日

- 複数の分野横断的な「知」や、複数の分野の専門知を単に組み合わせた「知」とは区別すべき
- 複数の分野で培われた「知」をもとに、課題解決や新たな分野の開拓などのために生み出される新たな「知」

# Q & A 複合知について

- 複合知とはどのようなものでしょうか？
  - 自身の専門領域で培われた「知」と、それ以外の領域で培われた「知」を活用することによって生まれる「知」
  - 自身の専門領域とは関係性が見出せていなかった分野の「知」を取り込むことによって、新たな専門領域を開拓したり、研究成果を社会還元・社会実装する際に役立てられる



# Q & A 副研究科等

- **どのような基準で副研究科等やその指導教員を探せば良いでしょうか？**
  - 自身の専門領域以外の研究知を自身の研究に役立てること、あるいは、研究成果を社会に還元するために必要と考えられる知を模索すること、さらには、自身のキャリアパスに役立てることなどを基準として、探索ください。
  - 支援開始後は必要に応じて、メンターを紹介します。
- **いつまでに決定すべきでしょうか？**
  - 早いに越したことはないと思いますが、採択後最初の進捗状況報告会（6か月後）までには決めていただきます。
  - 支援開始後1年以内に副指導教員の設定ができていなければ、以後の支援は打ち切ります
- **副研究科等として、他大学の研究科・研究室を指定することは可能でしょうか？**
  - 本プログラムの趣旨に則り、指導教員との合意のもとで可とします。

# Q & A 副研究科等

- 所属研究科の先生であっても、専攻や分野が異なっても副研究科等の指導教員をお願いしても良いのでしょうか？
  - 本プログラムの趣旨に則っていれば、結構です。
- 副研究科等の指導教員にどの程度の指導を仰ぐことが求められているのでしょうか？
  - 当事者によって状況が異なると思われるので、一概にはお答えできるものではないと考えます。共同研究にまで発展する場合もあれば、副研究科等の専門知を学び取るに留まる場合もあると思います。ご自身の研究やキャリアパスの形成に役立てることを第一にお考えください。
  - なお、本プログラムはダブルディグリーを目指しているものではありません。

# Q & A 国内外留学 & インターンシップ

- 留学先，期間，時期はどのように決めればよいですか。
  - 自らの研究内容，研究計画，キャリアパスを考えて，留学先，期間，時期を考え，指導教員と相談して決めてください
  - 更なるアドバイスが必要であれば，メンターを紹介します
  - 最大150万円の範囲内で計画（期間，複数可）を立案ください
  - 留学先は，国外・国内を問わない
  - 年度ごとに予算の制約があることに注意
  - 標準修学年限の最終年度の前期までに、国内外留学が未実施、あるいは、実施計画の詳細が立てられていなければ、以後の支援は打ち切ります
- インターンシップ活動について教えてください。
  - 指導教員と相談して決めてください
  - キャリアパスを強く意識すること
  - 企業・行政・大学等を含め，幅広くインターンシップ先を考える
  - アドバイスが必要であれば，支援開始後はメンターを紹介します

# Q & A 研究奨励金および研究活動費

- **税金の関係について教えてください。**
  - リゾーム研究奨励費に含まれる奨励費（生活費相当額）は、個人の雑所得扱いになります。各自で、確定申告等の必要な手続きを行う必要があります。この生活費相当額は税法上雑所得として扱われていること等を扶養義務者（親等）に伝えるとともに、健康保険や扶養手当等における扶養の扱いについては、扶養義務者（親等）の職場等の担当者に問い合わせてください。また、所得税における扶養の扱いについては、近隣の税務署に問い合わせてください。
- **リゾーム研究奨励費の使用用途の制限事項はありますか？**
  - この事業の原資が税金であることを十分に理解したうえで、有効に活用してください。
  - 生活費相当額の奨励費については使用用途を問うことはありません。
  - 個人研究費は、すべて使途を明確にしたうえで使用が許可されます。
- **リゾーム研究活動費の使途、回数（論文投稿・英文校正など）について制約はありますか？**
  - 予算に限りがありますが、可能な限り支援します。極端に多くの支出がある場合には考慮することがあります。



- 休学する場合の取り扱いについて教えてください。
  - 出産・育児・傷病等の理由で研究の継続が困難になった場合には、個別の事情に応じて支援期間の中断・延長等を判断します。このような状況になったら、ご相談ください。なお、本プログラムは経済的な理由による研究活動の停滞がないようにとの趣旨で支援を行っていることを、十分に理解ください。